

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ①人材養成目的に沿った科目構成の整理

##### 《理工農系》

#### ●帯広畜産大学畜産学研究科畜産衛生学専攻

#### 「食の安全性確保の国際標準化による実践教育」の事例

##### (具体的に何を実施したのか)

食の安全確保のために「国際標準」に基づいた迅速な対応ができる人材育成を目的に、具体的には以下のように科目構成の整理を行った。

- ①科目数を現行（16科目）から、新カリキュラム案では13科目に改編
- ②毒性学・食品微生物・獣医原虫病などを新たに新設した科目を共通科目（必修）とコース別必修科目に整理した。
- ③実習は必修とし、各科目内容と一体となった実習を提供

また、新カリキュラム案に基づき、「食の安全確保」に係わる英語によるテキストを作成した。各講義の基礎部分を提供するもので、各講義の応用部分をまとめたリーダー（Reader）、各講義の重要概念をまとめた用語集の3点セットにより、今後、畜産衛生学専攻の教育が進められてゆく予定である。さらに、特別講義のカリキュラム化、英語による実習マニュアル作成、学生主体の国際ワークショップの開催、イングリッシュ・リソース・センター（ERC）の設立などを行った。

##### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

「国際標準」とは何かを明確にするために、食の安全に関わる先進的大学院教育を行う大学のカリキュラム調査を行い整理を行った。この調査結果に基づき、食の安全確保に関わる「国際標準」のカリキュラム改編に、どのような科目が必要かを関係教員に説明することで、カリキュラム改編をスムーズに進めることができた。

##### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

英語テキストについては既に運用が始まっているが、各講義の基礎部分を提供する内容、応用部分をまとめたリーダー（Reader）、重要概念をまとめた用語集の3点セットになっており、学生にとっては大変わかりやすい1冊となっている。予習・復習をする上で、おおいに活用されており、畜産衛生学専攻の教育をする上で欠かせないものとなっている。

また、新カリキュラムについては、平成24年度から開始する予定である。そのために、科目等整理してきており、食の安全確保のための国際標準化の方向付けに貢献できる人材、実務リーダーへの人材育成に向けて、高い教育効果が予測

される。